

弘法大師正御影供

報恩感謝の大法会

4月20日(日)午前10時より
(旧3月21日)



轉法輪

それ禿なる樹定んで
禿なるに非ず。
春に遇うときは
すなわち榮え華さく

平成二十六年三月二十日発行
発行所 犬飼山 転法輪寺
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七一三一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七一七
編集発行人 桑山慈紹
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

野山の草花が春の光をあびて
いっせいに咲きはじめました。

私たちもお大師さまの慈光に
ふれて心の花を咲かせたいもの

法要午前十時より

内吉野結衆寺院総出仕

法話 午後一時より

本山布教師

震災支援

チャリティーバザー

十一時より教堂一階にて

もちまき

二時半より境内にて

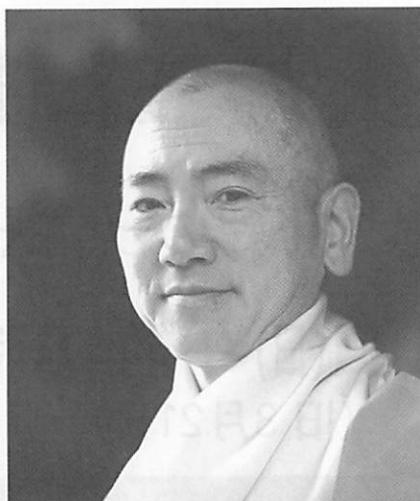
犬飼山轉法輪寺

卷之三

〈お大師さまのお言葉〉

冬枯れの樹でも、春には芽生え、葉をしげらせて実をつける。幼い子どもでも人との関わりによって思いやりの心が生まれる。

厄除開運星祭護摩供を 無魔結願して



住職 桑山慈紹

平成二十六年度厄除開運星祭護摩供は、去る平成二十五年十月十一日開白し、平成二十六年二月三日節分会を以つて無魔成満いたしました。その間、不動尊息災護摩供六十二座、厄除開運星供八十座、明神法（御本地供）六十一座を厳修し、檀信徒各家皆様の厄

除開運、身体健全、交通安全、家内安全、息災延命、善願成就を至心に御祈念申しあげました。

この厄除開運星祭に際しまして、総

代様、御世話人様をはじめ、沢山の檀信徒の方々のご支援ご協力を頂きました。ありがとうございます。厚くお礼申しあげます。さて次に厄除開運の方法を昨年につづき、簡単にご説明致しましょう。

あなたがより幸せになるために

(イ) 厄年のはざまに親先祖の供養、
親孝行を充分しましよう。

仏壇には毎日、墓は近ければ月三回参りましよう。

近年独居老人が増えていくように思います。元気な内に仏壇まつりを若い人に伝えて、共に信仰に励むと良いでしょう。無住の家に仏壇、お社を置いたままでは良くありません。毎日のお給仕、ご法樂（読經）が大切です。若い人もいつまでも若くなく、人の世のも

無常を肌で感じ、信仰心に目覚めるものであります。遠慮せず、気軽に話してみて下さい。

(ロ) 厄年のはざまに貴家の神殿を新しくしたり、日々礼拝を実行しましよう。神様に毎日、塩、水、洗米等お給仕し、祝詞（お経）を唱えて礼拝することは、大変ご利益があります。家内安全、如意円満のため日々実行されると、神々は大変喜ばれ、その家は繁盛致します。

尚、神様のお社は、少なくとも一年一度はおろしてお掃除して下さい。

(ハ) 近親者で救われぬ靈がありますと、病氣、災難を引き起こすことがあります。泣いている靈を喜びの靈にします。

何もないとこに生まれる命はありません。誰にも親、そのまた親と綿々とつながるルーツがあります。

轉法輪

それが先祖代々といふものです。この先祖代々を図に示したものが系図です。この系図を作成して自分の今おかれている場所を確認すると共に、自分につながっている人々を大切に思うことが必要でしょう。自分の人生の中で、ご縁とご恩あるお方は、何人もおられるでしよう。その方に感謝の心で礼拝すること、これも開運につながる一方法と申せましょう。

また、戦争を経験している日本は、護国英靈をねんごろに供養し七十年以上となりました。

戦争とは殺し合いであります。自他共にゆるし合い成仏してこそ、本当の供養となります。英靈にまつわる戦争犠牲靈供養も大切でしよう。心ある人はやつてみて下さい。

〔二〕水児、嬰児の供養不足がまだま

心よりザンゲして四十九日の供養をして下さい。

水児や嬰児は、小さい靈ですが、願いは大きく供養を求めています。少なくとも位牌、又は過去帳に合祀し、お祀りしてあげて下さい。

(末)「笑」

今年の一宇として「笑」の字を、正月護摩の時、ご本尊様より授かりました。

四月から消費税が上る。郵便料金も

あつてこそ笑えます。
特別のご真言「おんにここに」腹立てまいぞやそわか」体調管理に気をつけて元気に笑ってまいりましょう！
「あなたが今年大切にしたいものは何ですか？」

初詣の今年の一宇

「笑」は第二位の九十六票でした。



私の一字を気合をこめてはります！

生かせいのち

【第四十一話】

名譽住職 桑山聖規



人生最高の幸せ「大安樂」

私たちの願う幸せにはどのようなものがあるでしょうか。健康でいること、

仕事が安定していること、家族の仲が

よいことなど、人によって様々でしょ
う。しかしこれらは、手に入れていて
も、いつ失われるのかは誰にもわから
ないのです。事故や災難、身体の衰え
や病気、肉親との別れなど、人生の苦
しみからは誰一人としてまぬがれるも
のはありません。

宗祖弘法大師は「即身成仏」を説いて
真言宗を開かれました。即身成仏とは
この身体のままに仏になることです。
あの世に行つてから成仏するよりも、
いま生きているこの世界で仏にな
ることができれば、何事にも迷わず、
苦しむことのない「大安樂」を得るこ
とができると考えられました。仏教の
開祖、お釈迦さまも修行の末に悟りを
開かれ、八十才で入滅されるまでに八
万四千の法門を説かれましたが、その
要は悟りを得ることであり、つまりは
即身成仏の教えを示されていたのです。

私たちは生まれた時から仏の子で
す。それを自覚してみ親の仏に帰依し、

仏の教え（法）に帰依し、仏の教えを
守り修行する僧に帰依しましょう。身
口意「身体と言葉と心」に罪を造らず、
自他共に大切にしながら、拌み合い助
け合う感謝の生活をすることで、心中
の仏性は輝きを増して、この身体のま
で仏になれるのです。

身口意に慈悲の心を満たして日々が
送れたなら、家庭は円満に、人との交
際も和やかになり、毎日を感謝の心で
過ごすことができるでしょう。その心
が即身成仏のかたちであり、仏の子で
ある私たちの命を最大限に生かす道で
す。仏の心を持つものは迷いや苦しみ
の無い大安樂の世界を生きています。
仏になることができれば、地上も極楽
と同じことなのです。

さて、四月二十日は旧暦三月二十一
日で、宗祖弘法大師のご入定の聖日で
す。大師への報恩感謝と自己の精神修
養のために万障縁り合わせてご参詣く
ださい。

南無大師遍照金剛

心に宝を—11—

「生きてこそ」

平成二十六年 春彼岸

橋本市
宝形山 地蔵寺

井上覚善

厳しかつた寒さも和らいで、桜の蕾もだんだんと膨らみを増し、心躍る季節がやつてきました。そしてまた、春は出会いと別れの季節でもあります。

最近は小学生などでも「お受験」と称し、親御さんも目の色を変え熱くなつておられる方も少なくありません。そして、その結果で人生が決まつてしまふかの様に有頂天になつたり、また反対に、人生の敗北者の様に落ち込む方もありますが、本当に結果だけが大事なのでしょうか。そしてまた、順調にエリートコースを歩むのがベストなことなのでしょうか。

いいえ、そうではないと思います。順調にすすむのも理想ではあるかも知れません。しかし、小さい頃から失敗や挫折を経験せずに順調に行き過ぎると、何かにつけ人を見下すようになってしまつたり、自分は特別な人間だと思い上がつてしまつたり、また失敗を知らないが為に、社会に出てからの小さなミスなどでも必要以上に落ち込んで自虐行為に走つたり鬱になつてしまふ人もいます。

また反対に、行きたい学校や就職先へ入れなかつたとしても、それをバネにして励む人もたくさんおられますし、失敗や挫折は悪い面ばかりでは無く、弱い人の悲しみや苦しみ辛さなどを知る良い機会でもあると思います。

まして人生などは終わつてみなれば、それが本当に良かつたのか、悪かつたのか分かりません。ですから一番大切なのは、その時々の結果にあまり深く一喜一憂せずに、絶えず自分のベストを尽くすことではないでしょうか。

合掌



境内に咲く福寿草

か。一生懸命やつて結果がついてくれば結構なことですし、また結果が悪くても精一杯やつたのであれば納得も出来ると思いますし、それがまた、違う『新たなご縁』の始まりともなります。

私たちのこの限りある尊い命の残り時間は、一生懸命頑張ついても、怠けて寝ていても、泣いていても笑っていても、確実に一日一日、減つていつております。

精一杯生きておれば「お大師さま」も【輝くお天道さま】や【涼やかなお月さま】となつて、常に私たちを照らし見守つてくださつております。お互いに限りある命を輝かしたいですね。

四国八十八ヶ所

歩き遍路の

ちよつといい話

松山市

山本益男

いろいろな事に出会うのよ・・・

その13

今回のちよつといい話は、昨年流行語にもなった「おもてなし」についての遍路編です。前回私の仕事について

ちよつとふれましたが、私の仕事というものは「建設コンサルタント」（いわゆるサービス業に属します）という業種です。この業種のお客さんは、主に国土交通省、地方自治体、そして民間企業です。今回のお話というのは、前述のそれそれのお遍路さんに対する「おもてなし」についてちよつと書かせて頂こうと思っています。

まず民間や自治体ですが、前号でちょっと紹介した遍路小屋というの

が完成しておりますが、「四国八十八ヶ所ヘンロ小屋プロジェクト」という、建築家の歌一洋・近畿大学教授が提唱している活動で建設されたものです。四国八十八ヶ所は、歩くと約千二百kmというそれは長い道のりです。普通の人でも四十日から六十日もかかります。歩き遍路さんが立ち寄って、足を伸ばし、一休みできる（あるいは野宿できる）簡単な休憩所が「ヘンロ小屋」及び「ヘンロ小屋」プロジェクトの趣旨です。当然の事ながら遍路小屋は国道の遍路道沿いに建設されています（駐車場はないので歩き専門の方々の利用が圧倒的に多い施設です）。

歌教授がその土地に合わせて設計をし、地元の方々が寄付金集めや、労力奉仕をしてこれまで建設されており、小屋の立地する土地も、所有者や自治体から借りており、すべてがボランティアの精神によって実施されています。このヘンロ小屋は二千一年に第一号が徳島県海陽町にできて以来、これまで四十七棟（平成二十五年六月現在）が完成しておりますが、「四国八十八ヶ所ヘンロ小屋プロジェクト」を支援す

る会の目標は、四国八十八ヶ所にちゃんと八十八棟とプラス一棟が目標なのです。歩きのお遍路にとつては、おそらく知る知らずは別として必ずとおもてなしになる、また利用させて頂いているありがたい施設です。あるときは雨風をしのぐ場所として、又あるときは強い日差しよけとして、そして食事や休憩、足・体のメンテナンスの場所としてとてもありがたい場所です（ちなみにトイレの設備はありません）。ある意味コンビニ同様便利すぎて、また適度な間隔（距離）ごとにがあるので、気を遣わなくていい気軽な休憩施設なのですが、うがつた見方をすれば、昔ほどの人間関係が希薄になつたための産物と言えなくなりません。

次は道路管理者による「おもてなし（一部おせつかい）という声もありますが・・・」です。短い距離でも歩かれたことのある方はおそらく目にすると思いますが、国道の遍路道を歩いているところのみちは旧遍路道をベースに国が定めた標がちょくちょく目に留まります。四

轉法輪

めた、四国を再発見しようという四国自然遊歩道で、歴史・文化指向の国土交通省ルート（約千三百km）と自然指向の環境省ルート（約千六百km）の2ルートがあります（国土交通省の道標はコンクリート柱が大半ですが環境省は木製です）。これからのお話は、この道路管理者（国土交通省）の道標以外のお遍路さんに対する「おもてなし」のお話です。それは、昨年の徳島県の国道五十五号線（美波町付近）のトンネルの仕事に従事していたときのことです。この国道五十五号の徳島県内の延長は約九十km、トンネルは十八本あります。そのうちの2／3の歩道が整備されていない状況にあります。この五十五号は高知に至るまでその大半が遍路道なのですが、先ほども書いたように歩道が未整備のため、暗いトンネルを大型車の通行に注意しながら段差のない狭い歩道を歩いたり、時には安全に歩ける歩道へ移動するため時として交通量の多い、そして見通しの悪い道路を横断歩道のない場所を横断する時もあります。しかし、二十三番薬王寺に近い日和佐トンネルでは、歩道

を歩く歩行者のために（といつてもほんとお遍路さん専用といつてもいいくらい）感知センサーがあります。歩道を通行する歩行者（お遍路さん）がセンサーの下まで行くと進行方向前方の二基の照明が点灯、それがトンネル出口まで連続して動作し、トンネル内に歩行者がいるというサインを運転手に喚起するよう、歩道用の照明システムが設置されています。さらに歩道には段差はないものの1.1mの高さの防護柵によって車道と歩道が完全に区別されています。このようなシステムは、このほか高知県との県境にある水床（みとこ）トンネルにも設置されています。この調査で調べてみると設置は、平成十六年設置でした。現在このシステムはトンネル延長六百mを越えるこの2トンネルのみです）。

さらに、この2トンネルは、1.1m幅の歩道を確保するため、通常の3m幅の車道を両車線2.85mに縮小してこの歩道幅を確保しています。そのためこのトンネルを通過するドライバーにとつては、急に狭く感じるのかトンネル内で

は減速傾向となります。このほか、美波町周辺では、歩道を設置できない道路やトンネルにおいて、路肩部の歩道部を緑色に塗装し、歩行者（もしくはお遍路さん）が通行する空間としての視認性を向上させ、歩行者や自転車の安全確保を図るものとしてグリーンベルトを設置しています。また、国道では一部の旧遍路道を歩くお遍路さんは、このため道路横断の可能性のある場所では「お遍路さんの横断あり」の標識も設置しています（そのための横断歩道はありませんが…）。以上は徳島県南部における一例ですが、愛媛県内では宇和島から西予までの国道五十六号線のトンネル手前には、写真のようなトンネルを通行するお遍路さん用にトンネル入り口には反射タスキが用意され、箱に返却します。道路管理者において



道路管理者の
「おもてなし(反射タスキ)」

もここ数年増加傾向にある歩きお遍路さんのための様々な施策が現地では講じられているのです。道路管理者の「おもてなし(反射タスキ)」

最後に私事ながら、年明け後も徳島高知と遍路道沿いの仕事が続きます。

昨年の遍路道沿いでの仕事以来たまにですが、数年前の遍路をしていたときの一場面が唐突に夢に浮かぶことがあります。私はあまり夢を見ないのであります。(単に覚えていないだけなのかが(單に覚えていないだけなのかも?)、それは時にお寺の境内であつたり、時に宿の部屋の中であつたり、山中での遍路道の風景そのものであつたり、道中知り合つたお遍路さんだつたり、お寺の人だつたり、自分の中ではすっかり忘れてしまつてのことさえ、突如、眼前に浮かぶことがあります。そのときは懐かしさと同時に不思議な感じを覚えます。思い出そうとしても思い出せないのに、ふつと唐突に光景が甦るのですから、いつたい人間の記憶というものは、何なんだろうと思つてしまします。さらに付け加えて言えば、今見てきたかのように、やたらと鮮やかなのであります。

合掌

光を求めて

西吉野町和田 光明院

住職 岩井恵照

その五

夕食の準備をしていた時のことです。ちょっと油断した隙に、飼い猫の『どんべい』がおかげを狙つて食卓に上つてきました。私は思わず「こら」と声を荒げて猫の頭を叩いておひらひります。

それを見ていた孝憲は「お母さんどんべい君叩いたらあかん」と猫を抱きよせ「どんべい君おかげ取つたらあかんのやでえ」とやさしく言つて聞かせているのです。

私どもは、猫は獲物を狙うもの、言つて聞かせても解らないもの、と初めから決めつけていますが、猫はおかげを見て「美味しそうだなあ、欲しいなあ」と思つたのでしょうか。

佛教では『森羅万象一木一草悉く皆仏なり』と教えていますが、私どもはついつい物として捕らえてしまいがちです。ところが孝憲にとつて動物や魚はもちろん、木や草や小さな虫や雨に至るまで自分と同じ仲間なのです。犬も猫も金魚も自分と同じ仲間だから、猫の気持ち金魚の気持ちも良く解るのでしょう。

御仏さまの教えを地で行く孝憲の言葉は、私どもの心を生き生きと蘇らせ、眼を覚ました。

人の值打ち 孝憲と共に生きてきた三十六年の間にはいろんなことがあります。孝憲に関わつて下さった先生方や、クラスのお友達や、ご近所の方などいろいろな方々の支えを頂いて今日まで過ごして参りました。

孝憲が障害を背負わずに生まれていたら、私どもは人生を深く考えることもせず、知恵おくれの子供達がこんな素晴らしい純真な心を持つていることも知らずに、ありきたりの人生を送つたかもしれません。孝憲は私どもに、人としての心の在り方を考えさせ、いつも御仏さまの心を持つように、と教えてくれたように思います。

轉輪

障害を背負つた人に出会うと、可愛そうにお気の毒に……と云う目で、なるべく関わりを持たない人はすくなありません。障害を背負つている者がすなわち弱者ではありません。障害のある部分では確かに弱い立場にいます。周りの人達の介助を必要としています。

でも良く考えてみて下さい。人間としての価値はただそれだけでは無いはずです。重い障害を背負つっていても、ハンデを乗り越えて素晴らしい生き方をされている方がたくさんおられます。今年はオリンピックが開かれ、日本選手の活躍をテレビで観戦し、時間を見失して応援なさったことと思ひます。オリンピックより少し遅れて、障害を背負つている選手の競技＝パラリンピックが開かれたことを存じでしようか？障害を乗り越えてたくさんのメダルを日本へ持ち帰つてくれました。

世の中に無用のものは一つも無い。全てのものは適所に置かれたなら最上のものとなり、ほとんど無用のように見えるものでも、他のものに力を与え

ると共にその支えともなる。とロングフェロウが言っています。

秀でた人も

平凡な人も、

いろんな人が

いるからこそ、

この世の中が

成り立つてい

るのです。障害を背負つた人も含め、

皆さまお一人おひとりが、後にも先

にもない世の中にたつた一人の尊い存

在です。お互いに生かし生かされつ

ある尊い存在だと思います。

自分自身が大切で尊ければ、周りの

人達もそれぞれに大切で尊いのです。

自分も、周りの人達もそれぞれに尊く

愛しいのです。

自分を見直し、周りの人達を見直してみて下さい。皆がそれぞれの値打ちに輝いているのに気づくはずです。人は皆、自分が思っている以上に輝いて

いるのです。



震災支援

みえくチャリティーバザー

四月二十一日十二時～

教堂一階にて開催

ご家庭で余剰品があれば、四月十三日までに持ちよつて下さい。

新品 未使用の家庭用品

古着はクリーニング済みのものと
させて頂きます。



「熱くないですか？」

現地で地道な活動を続いている高野山足湯隊の活動資金等に寄付いたします。

来る4月20日(日)

◆もちまき 2時半ごろ



◆法要 午前10時より

内吉野寺院総出仕



正御影供

法話 午後一時より

「人の道 みんな知ってるつもりでも
忘れてる。」

平成二十三年三月十一日の東日本大震
災では忘れる事の出来ない大きな被害を
受けました。そんな中ご縁があり石巻在
住のあるご夫妻とそのお仲間の所へ毎年
出掛ける機会を頂きました。

被災地で沢山の方と触れ合う中、私自
身が生きる事の大切さを知ることが出来
ました。皆様はお大師様の信者でもあり、
その中で感動したお話をさせて頂きたい
と思います。



愛知県稻沢市阿弥陀寺住職

水野文人 僧正

<プロフィール>

大学時代に密教画と出会う。
平成四年 本山布教師拝命
東海地域伝道団団長。民生委員



—ご奉仕のお願い—

正御影供の諸準備のため、お手伝いを
よろしくお願ひ申し上げます。

四月十九日(土) 餅つき・旗立
お世話人様は、ハッピ・袈裟

掃除など

四月二十日(日) 当日(八時から)

個人祈祷・水子供養はお休みです。

四月二十一日(月) 後片付け

<お知らせ>

四月二十一日の大師会はありません。

四月十九日～四月二十一日まで

個人祈祷・水子供養はお休みです。